

# 令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

## 第2回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

### ■第2回 雨の季節の森を歩く（春日山遊歩道北部～若草山）

実施日：2025年6月21日（土）9:00～12:20

参加者：8名（学部生：5名、外部教職員2名、教職員：杉山、河野）

概要：梅雨時期の春日山原始林を歩きます。雨に濡れた森の美しさを感じるとともにコケなどの小さな植物を観察します。また、近年の豪雨の影響などについても触れ、春日山原始林の現状の課題についても考えます。（晴天でも実施します）

スケジュール	
9:00	春日大社国宝殿前集合・挨拶
9:10	出発、水谷神社
9:30	春日山遊歩道（北部）を歩きながら解説（カラスザンショウ、カヤ、イヌガヤ、モミの観察、フジの古木、仏頭石、イチイガシ、ナギとモミの比較、水谷川、月日磐、）
9:50	ムササビの食痕、ムラサキシキブとヤブムラサキ、匂いのする葉っぱ、ツクバネガシのギャップ、植生保護柵
10:40	五感の体操、耳を澄ます、スキヤキハイク、森で寝転ぶ、ルーペと鑑で観察
11:40	下山（ヤマナメクジ、ムカデの捕食、植生保護柵の観察）
12:10	水谷茶屋前で終了・解散

### ■概要報告

梅雨時期の湿った森を体験するフィールドワーク。生憎、週の初めから晴天続きで、当日も30度を超える気温となった。参加者は5名。今回も女性は1名のみで、外部教員含め残りは男性という構成となった。

通常よりも歩く距離を減らして、ゆっくりと観察しながら歩くことと意識した。今回初めて春日山を歩く学生のために、春日大社の境内を歩きながら、春日山原始林の背景等についても概要を説明しながら歩いた。

原始林遊歩道では、同じ場所にある似たような樹種の葉をさわって、違いについて観察したり、特徴的な植物のほか、仏頭石、月日磐などの史跡についても簡単に解説しながら歩いた。また、林間のギャップと、シカの採食圧の影響と植生保護柵の対応などについても説明した。その後、五感の体操や鏡を目の下に置いて歩く「スキヤキハイク」、森で寝転んで休憩などを行い、森を感じる体験を実施した。その後、貸出たルーペや鏡を使って自由に観察する時間を設けた。

ゆっくり時間を使うことで、普段目に留めない、苔のほか、変形菌（粘菌）や、昆虫、きのこなど森の中の小さな動植物等に気づき、それぞれ興味深く観察を行っていた。

■ 写真



挨拶



みみをすます



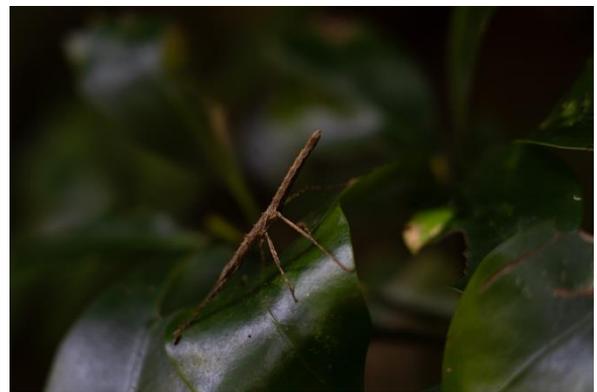
手鏡を目の下に置いて歩くスキヤキハイク



森でねころぶ



ルーペや鏡を使って観察



トゲナナフシ



変形菌（粘菌）ホソエノヌカホコリ



ヤマナメクジ